

## 平成29年白老町議会総務文教常任委員会協議会会議録

平成29年 3月27日（月曜日）

開 会 午後 1時00分

閉 会 午後 1時57分

---

### ○会議に付した事件

1. 西いぶり広域連合ごみ焼却施設共同整備に係る協議について
- 

### ○出席議員（7名）

委員長	小 西 秀 延 君	副委員長	及 川 保 君
委 員	前 田 博 之 君	委 員	大 淵 紀 夫 君
委 員	吉 田 和 子 君	委 員	吉 谷 一 孝 君
委 員	西 田 祐 子 君	議 長	山 本 浩 平 君

---

### ○欠席議員（なし）

---

### ○説明のため出席した者の職氏名

生活環境課長	山 本 康 正 君
生活環境課主査	上 田 幹 博 君
生活環境課主任	合 田 静 恵 君

---

### ○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	南 光 男 君
主 査	増 田 宏 仁 君

---

## ◎開会の宣言

○委員長（小西秀延君） ただいまより、総務文教常任委員会協議会を開催いたします。

（午後 1時00分）

---

○委員長（小西秀延君） 本日の協議事項ですが、西いぶり広域連合ごみ焼却施設共同整備に係る協議についてであります。

担当課からの説明を求めます。

山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 本日は、西いぶり広域連合とのごみ処焼却施設の共同整備にかかわる協議につきまして、説明するお時間いただきましてありがとうございます。広域連合からの負担金がまだ正式に提示されていないということで、全体としては、今のうちのほうで検討しています内容について説明をさせていただくという形で、雑駁な説明になってしまうかと思いますが、まずは今の状況等を皆さんにご報告させていただいて、今後のスケジュール等についても、詳細にご説明したいというふうに考えております。

説明のほうにつきましては、上田主査のほうから説明をさせていただきます。

○委員長（小西秀延君） 上田主査。

○生活環境課主査（上田幹博君） それでは、私のほうから、本日はお手元に資料2枚ございますけれども、これに沿ってご説明をさせていただきます。経緯でございますけれども、読む形になってしまいますけれども説明させていただきます。

白老町の廃棄物は、平成12年度から登別市のクリンクルセンターにて共同処理を行っております。室蘭市以西の2市3町（室蘭市・伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町）では、平成15年4月に広域ごみ処理施設メルトタワー21が稼働し、広域処理を行っている。当時はクリンクルセンターが設立間もないこともありまして、白老町・登別市2市町で共同処理（単独処理）を続けることとなっております。

メルトタワー21の施設運営保守管理業務委託が、平成33年7月までの契約となっております。西いぶり連合では、平成28年から、当該施設の延命化と新たな施設整備の比較検討を行うこととなりまして、その結果、平成37年度の供用開始を目指した新たな施設整備更新で行うことが決定したということでございます。これに伴いまして、平成29年2月13日に登別市・白老町に7市町による焼却施設の共同整備に係る協議に係る正式に参加要請がありまして、広域処理化、単独処理をする判断をするために登別市とともに協議を進めながら、7市町によるごみ焼却共同整備の検討を開始することとなっております。

続きまして、時期・項目ということで、スケジュールを説明させていただきますが、29年2月13日に今経緯を説明しましたが、広域処理協議の参加要請がございました。これに伴いまして、登別市では2月20日から24日まで、住民、団体を対象に説明会を実施してございます。直近ですけれども、先週の金曜日になりますが、西いぶり広域連合廃棄物担当課長会議がございまして、この

24日の会議で、広域連合から負担金の提示があったのですけれども、各市町の中で負担金の項目や内容においてちょっとばらつきがございまして、その場で議論する余地がないということで一度持ち帰って、3月30日に開催予定されております副市町長会議の中でさらにもう1回の議論をして、統一的な考え方を持った中で、負担額が確定するというわけではないのですけれども、現段階では正式な負担額、各市町にこれだけというものが示されるということはちょっと難しいということでございます。そう考えると、4月以降のスケジュールも予定がちょっとずれていくのではないのかなというふうに考えてございます。

それで、広域処理にもし決定した場合のスケジュールも載せてございますけれども、白老町においては、もし7月に住民説明会とまたは広域連合議会への規約の変更の協議等を行いまして、8月、9月ということで規約変更の締結と、あと補正予算等負担金が発生しますので計上していかなければいけないということが想定されるということで載せてございます。

次のページをお開きください。それでは①、②で単独処理（登別市）を進める、または広域処理（西いぶり）になった場合の対応についてということで、比較を表であらわしてございます。①ということで登別市単独処理、今の広域処理を進めるということと、②では西いぶりでの広域処理した場合どうなるのかということで、項目ごとに説明させていただきます。

施設までの距離でございますけれども、これはやはり、今クリンクルセンター白老町から約25キロメートル、移動時間では35分になります。西いぶりになりますと室蘭市の1番遠いところ石川町になりますので、ここからでは約50キロメートル、移動時間には約1時間15分ということで2倍の時間、収集施設までの距離はこのようになります。収集運搬については、もちろんクリンクルセンターでは現状のとおりとなります。広域に合流する場合だと運搬経費がもちろん増加になります。収集時間が少し早くなるかと思えます。事業者負担もふえます。これは白老清掃、許可している事業者と契約しますので、その場合の距離が多くなるともちろん単価も高くなるということで、事業者さんも負担がふえるということでございます。分別についてでございます。今ごみ袋はもちろん袋排出ということで現状のとおり動きません。広域処理になりますと分別が全く違う形になります。資源ごみの回収方法が変更になります。今、ビン、アルミ缶、スチール缶、別々の袋回収から今度はコンテナ回収といって袋に入れられないという、コンテナ、箱を設置した中に入れてもらうという形をとります。ですから分別、排出が変わるということであります。各ごみステーションではなく数カ所にまとめて回収するなど、そういう工夫が必要となります。

施設についてでございます。登別の場合は平成41年までの長寿命化運営計画に沿って、ごみを処理していきます。さらに平成51年まで、10年延びますけれども再延命も可能となるとということでございます。広域での合意の場合は、平成37年建てかえのため平成61年までの運営を計画することとなります。

次に、施設運営に係る負担金についてでございますけれども、これまで2市町、登別・白老でやっている負担金の場合は、ごみの量で按分して今負担金を支払ってございますので、それぞれの分類のごみの量で按分してございます。パーセントは記載のとおりでございます。合流の場合、これは7市町になりますので負担の割合が単純に少なくなります。2市町でやるものが7市町でやると

ということですので、割合がございしますが、均等割5%、実績割95%となっておりますけれども、総額のおよそ8%から9%のごみの量の按分で負担が発生するかという試算でございします。

その他になりますけれども、焼却灰の処分量が発生ということでもございますが、登別の場合ですと、今焼却しているものについては収集運搬として民間の施設に焼却灰を入れてございます。収集運搬も含めてでございますけれども、平成27年度の実績では1,954万6,000円、28年度見込みについても1,930万円ということで、これもごみの量で按分している額でございします。合流の場合は焼却灰等の収集運搬は発生しない、負担金の中に含まれますけれども、37年から47年までの間ありますけれども、41年まではもちろんクリンクルセンター再延命化していますので、この分の起債のお金を払っていかねばならないということも発生するのですけれども、合流してしまうということになりますので、起債は返していかねばいけないというふうになります。ちょっと早口だったのですけれども以上でございします。

○委員長（小西秀延君） 担当課からの説明が終わりました。

質疑のあります委員はどうぞ。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） いま、負担金がまだ決まっていないということだったのですけれども、その負担金というのは、合流の施設をつくって、先にいったように起債の分に対しての負担割合が決まって、その施設ができるまでの準備の負担金ではなくて、その合流した施設ができることへの負担金割合という意味なのかどうか、それが一つ。

それから、登別市はもう市民の団体説明とかは実施してはございますけれども、これは登別市が方向性が決まっていない中で、こういうことやっているのだと思うのですけれども、白老はあくまでも登別の方向性が決まらないうとできないのかなとちょっと思ったりもするのですけれども、その辺の考え方をおたずねします。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） まず、負担金というお話なのですが、これは西いぶり広域連合に対する負担金という形になりますので、まず29年度からもう既に発生してまいります。それは広域連合に入りますと広域連合の議会等もございしますので、いわゆる議会費だとかそういう諸経費、そういったものも当然29年度から発生してきますし、あと、建設が37年の4年前、4年間かけて建設するというふう聞いておりますので、建設費の負担金、それから、当然施設の維持管理経費ということで、広域連合に対して、先ほど均等割が5%、それから実績割ということで総額のごみ量で按分する形になりますけれども、総額のそのかかった経費の8%から9%は広域連合に対して支払っていかねばいけないという形のものが負担金というふう考えてございします。

それから、登別市の意見交換会のお話、ちょっとこちらには説明会と記載をしておりますが、これは登別市は意見交換会という名称でやっております。まだ共同整備に参加する、しないというのを全くフラットな状態で、とにかく皆さん、団体だとか、市民の皆さんの意見をお聞きするという形で、登別市は意見交換会というものを開いてご意見を伺ったようです。聞くところによりますと、合流しないほうが良いという意見が大勢を占めたというふう聞いておりますし、それについ

てそのやり方がどうなのだと、そういう行かない方向で誘導しているのではないか、デメリットばかりを強調して市のほうが説明したのではないかという報道等もありましたけども、一応意見交換会ということで皆さん意見をお聞きするという部分でやっているものですから、町として方針を固めてから、当然議会の皆様、それから町民の皆様にご説明するというふうに考えておりますので、それは登別市の方針が出てからしばらくたってからでは意味はありませんので、登別市の方針が出るのに合わせた形で皆様にそういったご説明をしたいなというふうに考えております。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 白老町としては、登別にやっていただいているということから考えると、登別市が出した方針には従わなければならないという、何かそういう形になって、登別市はあちらに行くけれどもこちらは行かないとか、登別市は行くけれどもこちらは行かないとか、そういう意味は白老は持てないですね。きっと登別市と同じ方向性を見ないとだめなのかなとちょっと思いながら今ずっと見ていたのですけれど、その辺はどうなのでしょう。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 基本的にはやはり登別市の方針といいますか、そちらがうちの方向性を決める部分で大きな部分を占めるというのは間違いございません。それはおっしゃるとおりだと思います。というのは、単独で処理ができる、白老町だけで単独施設をつくっていけるかどうかということになりますと、それは困難というふうに考えておりますので、やはり登別市の方針が大きいうちの方針について影響を与えるというのは間違いのないところだと思います。

○委員長（小西秀延君） 及川副委員長。

○副委員長（及川 保君） おおよその概要は報道等でわかっているのだけれども、この西いぶりのこのやるとこはまだ築14年くらいしかたっていないのです。また新たな施設を建設するという状況の中で、今この状況になっているのだけれども、白老町単独で考えたとき、確かにその登別市の今の状況が、課長説明にありましたけれども、平成41年まで起債として今のクリンクルのこれを払い続けていかなければならないというのがあります。これ新たな施設にするというのは、結局は二重に、新たな建設する部分とそのクリンクル部分と、二重のその起債の部分が非常にネックになると思うのです。そういったことも含めて、まちとしてやっぱりきちっと、この状況を十分考慮した中で進めていってほしいなということと、そこにはやっぱり登別市がどういう考えなのかも重要になってくるのだけれども、いずれにしてもこの距離とかそういうことを含めると、ずっとこれからこの状況が続くとなると、私としては非常にこの西いぶりの部分というのはまちにとっては厳しいと思うのですけれども、まちの今の考え方はどうですか。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） おっしゃるとおり、やはり41年まで長寿命化をして登別市さんとやるという方針が、うちのほうは決定をしておりました。そのあとに西いぶり広域連合が立て替える、一緒に入ってほしいということで協議を今してるわけですけれども、当然ながら41年まで、37年から41年まで施設として使えるものを捨てなければいけない、例えば西いぶりに入った場合です。そういった部分というのは、まず大きな要素として出てくると思うのです。使える施設をどう

するのかというところがありますし、当然起債の償還の部分の負担についても比較して、それでも西いぶりに行ったほうが有利なのか、起債を払ってまでも行くほうが有利なのかというのはちょっと計算をした中で考えなければいけないということもございますし、おっしゃるとおり、町としては登別市と協議を重ねながら、どういう形で進めていくのが1番いいのか。ですから、そういった使える施設を捨てていくのかということところは、やはり考えなければいけないというふうには考えております。そこは登別市も市民感情として、登別市に施設がありますので、市民感情として使えるものをなぜ捨てていくのだということが意見交換会等でも話が出てきているのはありますので、そこは登別市の考え方の中に、大きくそこは影響して、登別市の方針の中には、そこはちょっと考えなければいけないと。うちとしてはやはり起債の償還分というのは入れた中で、どちらが有利なのか不利なのかということところは考えたいというふうに考えております。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 流れ全部分かっているのだけれど、この費用対効果が何も出てこないのだけれど、これをやって現状の登別とやっている部分と西いぶりに行った場合の費用の比較が出ていないのです。多分、室蘭が4月には方針を作成するということは、そういう数字が出ているはずと思うのですが、うちはできていないのですか。そんなものもなくここで言って、それでもこれからいけば、登別の方向性があるから決定していかないということであればそれでいいのだけれど、行くということになったときにそこから白老も同じ作業をするのですか。

これ、町長はどういう判断なのですか。うちは全然積算していないのですか。議会に何もこれだけ1枚出しても、費用対効果でどれだけ町が負担になるのかだとか、そういうことをつくって資料を出さないと、これはいつできるのですか。登別はもうやっているでしょう。方針決めるのは4月ですよ。そういうことは内部でやっているでしょう。うちはそういうことはできないのか、できていても出さないのか。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 今、数字としては、登別市のほうとしても議会の中で、1度広域連合のほうでの負担金の概算というのを出してしております。それから持って行って変わる可能性があるのですが、一般質問、登別の議会中で2億円ぐらい負担がふえるというお話をしております。白老町についてもその概算の数字を持っていけば、数字としては出せないことないといえますか、それ自体は数字としてやっております。負担もふえると。登別市は2億円とっておりますけれども、ごみ収集運搬経費とかもふえますし、ですから、登別市よりもさらにふえる。要するに広域連合に行ったほうがふえるという試算を出しております。ただ、それが今最終的にすり合わせといたしますか、広域連合のほうでどういう項目立てで負担金をつくるかというのを、今最終の詰めをやっていまして、そこが変わることで、ガラッと、例えば今行くことでマイナスになると、西いぶりに行くことでうちの負担がふえると計算上出ていても、それが登別市も一般質問の答弁の中で、部長がお話しているとおおり、これは概算ですので大きく変わる可能性があるというふうなお話をしているのですけれども、その項目立てによって全く逆の結果が出てしまうということもあるものですから、それでうちのほうとしては最終的に広域連合の数字が副市町長会議とかで決定した中

で、最終的な数字をもって試算を出して皆さんお出しする形にしないと、数字が1人歩きしてしまうという懸念があるものですから、そこでその広域連合の最終的な数字といたしますか、負担金の額を待って皆さんのほうにご提示、それをもって試算をしてご提示するというふうに考えているところでございます。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） それは、今もう4月ですから、登別の決定があるのだけれども、それと並行してあわせてタイムスケジュールつくって、金額出して議会で説明していかないと、それこそ本当にその場限りの仕事になってしまうと思うのです。

それともう1つ大きな問題は、これは町民説明するのだけれど、この資源ごみの収集方法だって、本当にこういう形で共通的に白老がしなければいけないのか、白老方式で集めてどうするかというそういう問題もあると思うのです。もし単独とすれば、ちょっと話飛躍するかもしれないけれど、今のバイオマスセンターだって、塩素は別にして、そこでどう焼却して処理するかというそういう費用対効果を出して、安かったら単独でできる可能性もあるわけでしょう。そういう部分っていうのは総合的に、行政だから大きな問題だから、そういうことも整理されて議会に出てこない議論できないのではないですか。これは大きな問題です。多分これからいけば登別で2億円だから、距離がふえるから当然経費もふえてくるし、ごみ量でいくら按分にしてもそうでしょう。もしかしたら車をふやさないとだめかもわからないし、今は週に3回ということだけれど、今度はもっとふやさなければならないでしょう。そういう部分がふえると思うからかなりふえると思います。この財政が厳しいのに2億円、3億円、毎年出るようになったらどうなるのですか。それ理事者会議でそういう議論をされているのですか。その辺をうかがいます。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 委員おっしゃるとおり、この部分についてはまず数字が出てきた時点でしっかり精査をして、登別市の決定が出てから後追いにならないような形でちゃんと議会のほうにお示しして、数字が出た時点で試算をしてお示しして、町としての考え方というのをお出ししたいというふうに考えています。

それから、やはり資源ごみの問題等も総合的に、やはりバイオマスのちょっと問題等も含めて総合的に判断をするということはおっしゃるとおりですので、そこも含めた中で総合的に判断したいと思います。それから、ごみ収集経費については、おっしゃるとおり増車ということも出てきます。距離が2倍になるということになりますので、増車をしてごみ収集運搬経費がやはり上がっていくと、膨らむというのはもう間違いありませんので、そこを要するにスケールメリットで負担金が下がるということと比較して、どっちが有利なのか不利なのか。ただ、金額的なことだけではなくて、先ほどいいましたけれど、例えば資源ごみの分別の方法が変わるだとかということは、町民の皆様にとってご迷惑をおかけする、やり方が変わるということはお負担をおかけすることになりますので、その辺についても果たしてそれがどうなのかということも総合的に判断しなければいけませんので、そこをしっかりと大きな問題ですので、理事者にはそのときそのときで、町長、それから両副町長にご説明はしています。また、今回副市町長会議ございますけれども、その数字固ま

った段階ですぐご報告をうちのほうでして、町としての方針を固めた中で方向性を出して、議会のほうには、皆様のほうにはご説明できるような段取りを考えておりますのでご理解いただきたいと思えます。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 一言だけ言っておくけれど、今まで議会から話出ているから、ものによってはやり方別だけど、やっぱり議会と歩調を合わせてやっていかないと、これはあとあと大きな問題、尾を引くから、それだけはやっぱり行政側も、十分に注意してこの仕事を進めていかないと、これ大きな問題になりますよ。そういうことだけ申し上げます。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） その辺につきましても、理事者からも、議会の皆様にはしっかりとご説明する形を、登別市とも当然歩調を合わせながらしっかりとご説明するというふうに指示を受けておりますので、その辺はのちのち問題にならないような形でしっかりと行っていきたいと考えております。

○委員長（小西秀延君） ほかにございませんか。

吉谷委員。

○委員（吉谷一孝君） 初歩的な質問というか、単純に今までの白老町と登別市とのごみ処理の関係を考えると、単独であれば一緒にやるというのは、当然、今までいろいろな意味で白老町も登別市には迷惑をかけてきた部分があるので、そこは理解できるのですが、今回広域処理になるときに、登別と白老が一緒だという考え方の基本というのは何なのかということなのです。これ、最初から登別と白老はセットで広域連合にいくという考え方でこれから進めるということなのですが、これがなぜ西いぶりとだけ向きを合わなければいけないのか、単純に苫小牧ではなぜだめなのか、その辺のところはどうなのかちょっと教えていただきたいのです。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 基本的には、今までの登別市とのごみ処理の共同処理というのがございましたので、そういう流れといいますか、登別市と協議をしながら進めていかなければいけないというふうに考えております。ただ、それぞれ登別市、白老町それぞれが考えて、協議はしなければいけないのですが、メリット、デメリットはしっかりとその市町で考えて判断をするというのは当然のことになります。その中には、当然、例えば苫小牧市ということが1つどうなのかと、選択肢としてあり得ないのかということについては、町としても考えなければいけませんし、そういった意味では、こちら側としても今苫小牧市にそういうお話は、打診といいますかそういった部分では、今ちょっと受け入れられる状況にないという押さえはしてございますので、全く苫小牧市とそういう話をしていないということはありません。しておりますが、ちょっと受け入れられる状況にはないというお話をいただいているところでございます。

○委員長（小西秀延君） 吉谷委員。

○委員（吉谷一孝君） 過去にそういうことがあったということは私も理解しているのですが、その打診をしたのがいつの段階かということも教えていただきたいのです。その時期によってもや



っぱり苦小牧にある施設だって老朽化して、施設も今使わない、廃止しようとする施設もあるし、そこ廃止するという事になれば、また別なところを今度建てかえるのか、大きくするのか、それとも各自治体も人口が減っていますから、また新しく別な計画がたっているから、白老はその検討の中には入ってないというか、入り込める余地がないという判断なのか、その辺のところをちょっと教えていただきたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 打診といいますかちょっとお話をさせていただいたのは、実は今回の西いぶり広域連合への共同を決める際に、今回打診させていただいたものですから、ちょっと過去ということではなくて、今現在その受け入れられる状況にないというお話でのことでございます。

○委員長（小西秀延君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） これ苦小牧市との関係がそうだっていうことは押さえた。それから、遠くなれば当然費用がかかるということも当たり前のこと。そういう状況であれば、ざっくばらんには登別と動くしかない、これははっきりしているのです。ごちゃごちゃいう中身のものではないと私は思っているのです。ただ、この今5市町でやっている広域連合と7市町になった場合のその負担割合の違いが、考慮されるような性格なものなのかどうかという意味なのです。なぜかという、この1回、経費負担割合が出たわけです。それがトラブルがあって戻るということは、どこかに整合性がなかったり、違った部分があるからそうなるに決まっているのです。それぞれの市町がそれぞれ出したくないのだから。

だから、うんと簡単にいえば、白老と登別は遠いのだから、負担割合の中で均等ではなくて、そういうものが考慮される範囲があるかどうかことなのです。地元のは運搬安くなるわけで、遠くなれば運搬費用がかかるわけだから、そういうことを西いぶりの7市町との連合の中で、その考慮する配慮があるものなのかどうか、その制度的に。そこら辺はどのようなものでしょう。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） それについては、実は私どもについても、当然ながら1番遠いまちになりますので、ごみ収集運搬経費が相当額上がるというところで、提案といいますか、広域連合のほうに、そこをプールして、うちのごみ収集運搬経費をプールした中で全体のごみの量で按分するという事を提案もさせていただいております。そこは協議はさせていただいているのですが、やはりなかなか広域連合としてもそれをいよという話になるかということになると、豊浦町も遠いですし、洞爺湖町とかそういったところもある程度遠い部分ありますけれども、その部分をそれぞれスケールメリットが出ますけれども、そのメリットからうちにその分分け前といいますか、くれるかどうかということについてはなかなか難しい。それはやはり広域連合の中でちょっと意思統一はできないということになっています。

○委員長（小西秀延君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） いや、私はそこは分かるのです。それで何を言いたいかといったら、1番最初に出たものが持ち帰りになっているということは、きっとそういう問題なのだとは思うので

す。だから、そういうところに、例えば7市町が入ることによって、量がふえることによって建物そのものの、例えば全体的な単価が下がるだとかということは考えられるでしょう。出てくるわけです。そういうもので補えるというふうにはちょっと思えないのだけれど、補える範囲があるかどうかということだけなのです。あとは登別市でやるか、登別市をやめるといったらまさか我々単独でできないのだから、はっきりしているわけなのです。あとは苫小牧市がダメであればそれ以外の方法を考えるしかないのだから、ごみは待てないわけだから。そういうところで考えられる範囲がどれぐらいまであるかということを知りたかっただけなのです。金額ではないというのはわかります。トラブル起きて戻るということだから、それぞれの自治体がそういう思いでやるからそうなるのです。それは我々だって強く主張しているわけですよ。だからそこら辺での実際にそういうことが、考慮される範囲がこの負担割合の中であるかどうかだけなのです。そこがあれば考慮しなくてはいけなくなると思うのです。あまりないですか。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 現状ではやはり、広域連合としては自分たちの負担額というのを維持したいというのは当然考え方としてありますので、その余地というのはなかなか難しいのかなというふうに思っております。

○委員長（小西秀延君） ほかにありますか。

前田委員。

○委員（前田博之君） これは石川町にあります。当時できたときもすごいトラブルったのです。よその町村入れるとか入れないで、結果的に今のような形になったけれど、また元に戻って今回これをやるとなったときに、前回説明を聞いているかどうかわからないけれど、もともとの発想はどうなってきたのですか。前回も建てるときにかなり議論を、自治体の中で、もう参加するしないで、費用負担から何かで1回頓挫しそうになったのです。今回また31年に新たにつくるとということでみんなに声をかけているのだけれど、大淵委員も聞いたのだけれど、私も言おうかと思ったけれど、いろいろ聞いたらなっていなかったので言わなかったのだけれども、だからうちの負担はふえるということなのだけれども、実際には今やっている人方が少しでも負担を少なくするためにまた広げてしまうのでしょうか、結果的に。あるいは国のほうからエネルギーというそういう形の指導があつてこういうことになったのか、そこの原点、うちに働きかけがあった原点はどこなのですか。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 基本的にはごみ処理の共同処理の、当時平成11年、白老町も入っていた中でごみ処理の共同処理をしていきたいと思いますというその覚え書きですか、そちらの調印をもとに今回登別市と白老町に声かけしたというのが原点といいますか、それが広域連合からの依頼の根幹という形になります。当然ながらその根底にはスケールメリットが当然出ますので、5市町でやるよりも7市町でやったほうが建設費から何から全て、広域連合としては1つでも入れたほうが良いということでもありますので、それはもう間違いなくそのスケールメリットを考えた上でこちら側に入ってほしいと。こちら側としては、それが本当に有利なのか不利なのかというところを、そこをせめぎ合いではないですけれども、そこはやはり向こうの考えとしてはとにかく入ってほしい

というところの話になります。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 先ほど、大淵委員の質問の中にあっただけですけれど、こちらは白老が1番遠い、向こうも洞爺湖町とかが遠いといっているのですけれども、距離にあわせてそういう負担金というのは、今まで5市町でやっていたときはある程度見ているのだろうか。だから、白老からもし行くとなるとその距離も考えてくれるというのは、今までそれをやっていたのであれば考えてもらえるだろうけれど、負担割合はみんな同じだという形でやっていたのであれば、入ったごみの分だけで割り振りしていたのか、その辺どのように聞いていますか。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） そこはごみ収集運搬経費というのはもうそれぞれまちでやるものだ。ですから、全く負担金とは別物という考え方ですから、近いところ室蘭市はそれほどかかりませんけれども、豊浦町とか遠いところはそれだけの経費はかかりますが、それについては広域連合で見てもらえるということはありません。

○委員長（小西秀延君） 西田委員。

○委員（西田祐子君） 今までの説明を受けまして、やらなければいけないのだろうなという方向性はなんとなくじわっと感じたのですけれども、そうなってくると、登別のほうで決めてから白老町がというふうになるのですけれども、先ほど前田委員も言っていましたけれども、やはりシミュレーションというものをきちんと出して、なるべく早く示してほしいなと思うのです。単純にいつてしまえば、そちら側のほうのごみ負担のはわからなくても、こちらのほうが直接向こうに行ったら負担しなければいけないというものは全部計算できていますよね。あとはそちらの数字だけもらえばいいだけなので、そうなってくると、私たち議会としては、白老町の現在の財政でどこまで持ちこたえられるかという、あとそういう計算だけです。でしたら、なるべく早く提示していただければありがたいかなと思うのが1つ。

先ほどもいっていましたが白老のバイオマスセンター全く活用できないのですか。単純に思ったらバイオマスでごみ全部燃やしてしまっ、ごみかすだけを持っていったらどうなのかと、単純にこれ途方もない考え方だと私は思っていますけれども、ある程度そういうようなこととか、工夫とかできるものとかは全くないのか。その辺だけ伺います。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 負担額が提示されましたら速やかに、その辺はしっかりと試算をいたしまして速やかにお示しできるように、うちとしては考えております。

それからバイオマスについては、今施設自体の稼働が、高温高压がとまっている状況ですので、いわゆるごみを処理できる状況にないということでございます。ですから、そこは動かすとなりますと相当な経費をまた伴うこととなりますし、町民負担をバイオマスの方向性にも大きく影響するような問題になりますので、今いろいろ議論が起こっている中でというのはちょっと困難なのかなと、ただ、もし経費をかけないで、例えば何か利用できるものとかは総合的に考えなければいけないと思っておりますが、そういったまた高温高压を動かすとかというところは難しいというふう

考えております。

○委員長（小西秀延君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） 早い話が今の状況はそういうデータも必要なのだけれど、私は登別市とどう考えるかという、そこらあたりが1番の焦点のような気がするのです。金がいくら出てきても高く乗れなければ、そのようなものは議論する価値はないのです。そうではなくて、本当に長寿化計画の中で登別市とあと、例えば20年なら20年大丈夫というようなことで、登別市と協議するほうが、向こうをもうやられてしまったら、ただ、さっきの話でそれちょっと読んでいないからわからないけれど、そういうふうに言っているということは、逆に言えば、登別市は単独でやるという考えが結構あるという意味にもとれるのです。だから、そういうことを含めて考えないと何のメリットにもならないのです。全部明らかにするのではなくて、やっぱりそういうことも含めて、きちっと何が1番町民のためになって、何が将来的に1番いいのか。30年、50年、100年先のことを見たら、全体になるでしょうきっと。7市町になるだろうけれど、そうでないことを含めて、ごみが減っていく、人間が減っていくということを考えて、分別を例えば迷惑が町民にかかるというけれど、32分類にしたらもっともごみの量が減るのだったら、32分類にして白老町で金がかからないような方法を考えるとか、考えるとはそういうことだと思っているのです。だから、そういうことをやっぱりきちっとこう考えたほうがいいような気がするのです。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） やはり登別市との協議は単独で当然ながら、白老町として考えていくということもありますけども、先ほどもお話しさせていただいたように、登別市がどうするかというのは非常に大きなポイントになりますので、今のところ今回、3月の定例会の中でも、登別市のほうでは、変動する可能性はあるけれども2億円の負担増、広域連合に行った場合は2億円の負担増というふうに申し立てまして、このままではなかなか難しい。その中で、先ほど申しました遠方の自治体に対する何らかのそのメリットといいますか、平準化といいますか、負担を減らすようなことを広域連合で考えてくれないとなかなか乗れないというお話をさせていただいていますので、その答えが結構大きな要素になってくると思います。うちにとっても登別市にとっても大きな要素になってくると思いますので、そこは登別市とも連絡を密にしておりますので、そこはしっかり協議をさせていただいて、うちとやはり登別市としっかり足並みそろえて詰めていきたいと思っています。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 伊達市は、ごみの分別がすごく早くからやられて、有料化は早かったのですけれど、ごみに対しての取り組みがすごかったですけれど、広域連合になることでここに資源ごみの分別しか書いていませんけれど、話を聞いていたら広域になったら大変だなという思いがあるから、その分別のあり方というのは、伊達市は一緒に今広域で何か取り決めて分別やったのですか。それとも伊達市さんが進んでいた部分はそれに、みんなが合わせてやったのだろうか、その辺聞いていますか。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 多分、伊達市が先進的にやられたとしても、最終的には広域連合で一つの分別の仕方というのを決めてやられていますので、合わせたといいますか伊達市ではなくて広域連合のやり方で、今やっているという形になります。

生ごみだけ伊達市は別に堆肥化をしているということで、そこはちょっとほかの広域とは別に処理をされているということです。

○委員長（小西秀延君） ほかありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

---

### ◎閉会の宣言

○委員長（小西秀延君） それでは、総務文教常任委員会協議会を閉会いたします。お疲れさまでした。

（午後 1時57分）